

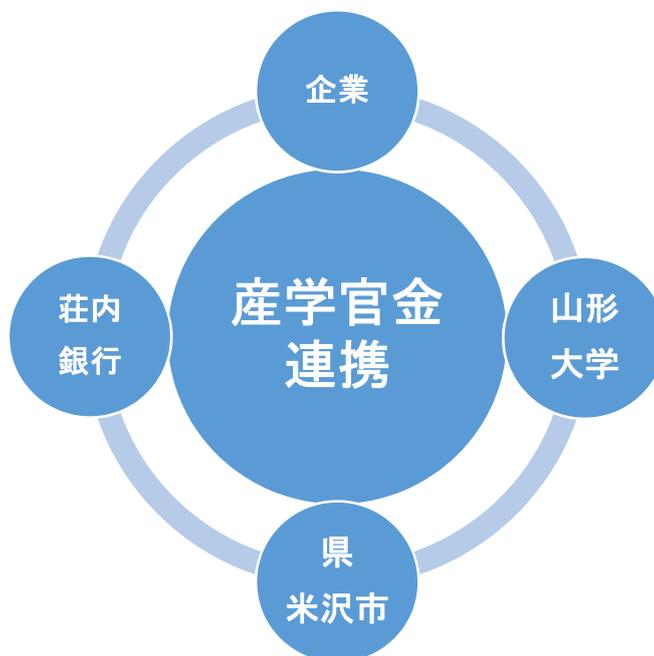
山形県米沢市開催の国際会議における産学官金連携効果について

三條 大輔（山形大学国際事業化研究センター）

事業概要

2016年9月6日（火）～8日（木）の3日間で、山形県米沢市において、ICFPE2016（フレキシブル印刷エレクトロニクスの科学、技術、応用に関する国際会議）が開催された。この分野の会議では最大規模のものであり、毎年アジアで開催し、2016年度で第7回目、2012年度以来の日本開催であった。また、日本／韓国／中国／台湾が交代で幹事を行っている。この国際会議は、日本を含む17か国から研究者が集まり、全体参加者は411名（海外126名）で、国内外から多くの研究者が参加した国際会議である。

当初、国際会議を運営するにあたり、大学内の教授や研究者、スタッフのみで、会議を運営する計画であったが、山形県米沢市で開催される過去最大の国際会議になることが予想され、予算や人員、交通、宿泊など様々な面での問題が生じ、その結果として、産としては、大学と共同研究等で関係のある企業が担当。学としては、山形大学が担い、官としては、山形県・米沢市・米沢商工会議所・一般社団法人米沢観光コンベンション協会が担い、金としては、荘内銀行が担当し、産学官金連携が図られる国際会議へと至った。



この産学官金連携における各団体における働きについて以下に述べる。

1、産（企業）

企業は、研究室と繋がりのある大企業K社が各企業にスポンサーや会議当日における展

示等の依頼を行い、収入面での増額を図る。また、地方銀行である荘内銀行が、地元企業や各金融機関にスポンサーの依頼を行い、同様に増額を図った。

2、学（山形大学）

山形大学は、国際会議を行う上で、組織委員会を月に1回開催した。メンバーとしては、産学官金連携を図ったメンバーを招集し、課題・問題等の解決や日程準備、各交通機関との協議などである。また、国際会議当日における人員確保のため、大学内の職員や学生などに募集を行った。

3、官（山形県、米沢市、米沢商工会議所、一般社団法人米沢観光コンベンション協会）

官としては、主に地元企業や住民への開催案内を行った。主に市報やインターネット、山形大学との共同での事前説明会を開催。また、英語力・おもてなしの心を指導する「おもてなしセミナー」も開催した。そのほかに、クレジットカードの使用有無の確認や海外から来日する外国人のホテル宿泊、飲食店での対応等について確認を取り、地元企業・住民における外国人の対応の面で推進を図った。加えて、「愛のはしご酒」というイベントを国際会議の期間に日程を合わせることで、地元活性化にも繋げた。

4、金（荘内銀行）

荘内銀行は、主に予算の管理や支出削減、地元企業への支出という面で活動を行った。予算としては、2000万円から2500万円を見込んでいたが、支出としてはそれを大きく上回る見積もりが来ていた。そこで、大幅な支出削減や地元企業への斡旋等を行い、大幅な支出削減を図り、赤字収支にならないように努めた。

今後について

今後は、地方で行われた同規模程度の国際会議（産学官金連携あり、なし）で分けて、分析を行い、国際会議における産学官金連携の効果を実証していく。また、今回の国際会議におけるインバウンド効果等について来年以降調査を行い、海外からの観光客の増加があったのかについての調査を行う。そのほか、産学官金連携を図ったメンバーを招集し、情報交換を行い、次回以降の国際会議の改善に向けての活動や地元企業・住民への今回の国際会議に対するアンケート調査も行っていく。

【参考文献】

国土交通省観光庁

<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kokusai/mice.html#igi>¹

日本政府観光局（JNTO）

http://www.jnto.go.jp/jpn/news/press_releases/110916_mice_economic_effect.html²